



# 日本ワクチン学会会報

vol.1

---

## 目 次

- ・ 発起人の言葉 大谷 明 (国立感染症研究所名誉所員) ……2
- ・ 理事長挨拶 神谷 齊 (国立療養所三重病院) ……3
- ・ 理事・監事紹介、理事会の組織案内、会員状況、会則  
山西弘一 (大阪大学医学部細菌学教室) ……4
- ・ 第4回学術集会会長挨拶 加藤達夫 (聖マリアンナ医科大学小児科) …6
- ・ 第4回学術集会プログラム ……7

# §日本ワクチン学会発足にあたって

国立感染症研究所名誉所員 大谷 明

1796年ジェンナーによる種痘開発以来永い間ワクチンの開発は専ら、経験的、偶発的要因に頼ってきたが、19世紀後半から始まった細菌学の進展、特に毒素、抗毒素の発見によりワクチン開発は学問として体系を整えてきた。1970年代に至り、組替え DNA 技術の導入によりワクチン開発はさらに論理的、計画的となり、近年では感染病理学、免疫学の進展、蛋白質工学の導入による薬理学的解析の進展、さらに病原生態学的解析によるワクチン効果の理論的評価等も加わって今やワクチン開発は各科学分野の成果を結集する総合的学問分野として発展してきている。まさにワクチン学の開幕である。このような基盤に立って、EPI、CVI 運動に見られるように世界のワクチン開発に関する意欲は益々盛んである。

一方、日本の動向に焦点を当てて見ると、20世紀における世界のワクチン史上における日本の貢献も、日本脳炎ワクチン、水痘ワクチン、百日咳ワクチンを始めとして、麻疹、風疹、BCG 各ワクチン等見るべきものがあつた。しかしながら、第2次世界大戦後50年を経た今日かつて猛威を奮った感染症も激減し世間のワクチンに対する関心も急速に薄れつつあり、ワクチン産業は衰退し、その開発意欲も著しく減少している。このような背景を受けて日本におけるワクチン開発研究に向けられる予算も米国等先進各国に比して格段に少なく、従って学会におけるワクチン関連の研究発表も減少している。その結果ワクチン学に対する学界の評価も低く、若い研究者にとっては魅力の無い研究分野となつてしまっている。本学会設立の趣旨は1)ワクチン学振興を旗印とし、研究費の増額、研究成果の正当な評価を高め、2)有望な若手研究者の育成に努めること、さらに3)社会に対してワクチンに関する正しい理解を求めることにある。

ワクチン学とは何か。ワクチン及びワクチンの開発を単なる伝承の産物や経験則に基づく行為ではなく、自然科学の一分野として認識することである。内容は生物学、化学、医学、工学、薬学等に関連する総合科学分野である。筆者はこの新しい認識に立って既に11年前講談社から「ワクチン学」を編集、出版した。英語名は“VACCINOLOGY”とした。当時としてはユニークな名称であつたが現在はWHOを始め広く使われている。その内容の概略を表1に示した。

表1：ワクチン学とは

1. 企画の科学性  
疾病の重要度、ワクチン活用の意義、接種対象と戦略、経済効果
2. 疾病の感染・発症病理  
感染即発病か、ウイルス血症を介しての発病か、感染発症実験動物モデルの開発
3. 免疫の質と関与  
液性免疫か細胞性免疫か、感染予防か発病阻止か
4. 免疫原の追及  
単クローン抗体の応用、抗原の分子構造、親水性ドメインの検出
5. ワクチンの製造技術開発  
細胞培養、抗原遺伝子の発現、DNA ワクチン
6. ワクチン製剤技術の開発  
経口剤、アジュバント、徐放剤
7. ワクチン特性測定法の開発  
特定蛋白質量法、抗原機能定量法
8. ワクチン保存法の開発  
安定剤、保存剤の開発
9. 接種法の選択  
注射、経口、経鼻
10. ワクチン使用戦略  
病原体の自然生態
11. ワクチン効果の評価  
経済効果、副反応

従来ワクチン学を扱った研究発表は日本では日本ウイルス学会、日本細菌学会、日本感染症学会、日本臨床ウイルス学会等その対象に応じて他種類の学会でなされていたが、それぞれの学会では少数者の扱いを受け日のあたる場所を与えられなかった。したがって学会の評価、研究費の支給も満足すべきものではなかった。ワクチンに関する独自の学会を興そうと云う話は数十年も前からあつたが、種々の事情で計画は実現しなかった。

1997年最初の発起人会が設立され、同年12月初めて第1回総会が東京で開催され、1998年には大阪、1999年には名古屋で開催された。本年は横浜で第4回日本ワクチン学会総会が開催される。構成は個人会員、賛助会員から成り事務所を国立三重病院内に置いている。しばらくは学会ニュースで会員との連絡を計るが、財政基盤がかたまれば原著論文を掲載する独自の学会誌の発行を考えている。そのほか社会に対

し適宜ワクチンに関する学会独自の啓発活動、提言を行ってゆくことも企画されている。

日本は過去において世界のワクチン開発に少なからぬ貢献をしてきた。水痘、日本脳炎各ワクチン、無細胞性百日咳ワクチンでは世界でパイオニアの役割を果たしたばかりでなく、精製インフルエンザワクチン、麻疹、風疹ワクチンの優れた品質は高く評価されている。しかし、これらの過去の栄光に対して

現在のワクチン市場の衰退はあまりにも対照的である。日本ワクチン学会の設立にあたり、1)ワクチン企業の世界に通用する経営に向けての抜本的見直し、2)厚生省における感染症対策部門とワクチン供給部門との緊密な連帯による総合的ワクチン施策の実行、3)健康保健組み込みや福祉予算適用による国民の予防接種費用負担の大幅な軽減、4)予防は治療に勝るといふ予防接種の経済効果の実地調査と啓蒙の4点についてとくに強く訴えたい。

---

## §日本ワクチン学会理事長に就任して

国立療養所三重病院 神谷 齊

日本ワクチン学会理事会の互選により、不肖私が初代理事長に選出されました。その責任の重大さを痛感いたしております。一日も早く本会が目的とする活動が出来る状態にするべく、努力いたしておりますが、何分未熟者ですので、会員の皆様の叱咤激励とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、日本ワクチン学会の設立の目的は、ワクチンの開発および臨床応用への寄与であります。ワクチンはヒトのみならず広く動植物界において、感染症発症を予防する重要な武器として、臨床のあらゆる分野に浸透して行く必要があります。また動植物分野での成果をヒトに応用して行く事も重要です。その意味で会員を広く求め、規模の大きな学会に発展させ内容の充実を図ると共に、その成果を世界に発信して行くことが必要と思います。一日も早く権威ある学会誌の発刊が必要であります。

また、ヒトのワクチンについて、現在我が国では厚生省が管轄しておりますが、その諮問機関が明確ではなく、その場しのぎの行政になりがちであります。当ワクチン学会は科学的にワクチンを評価し、我が国のワクチン行政に学会としての意見を反映できるように今後組織を充実して行く所存です。その様なことも視野に入れて、本学会は設立準備の段階から、ワクチン企業や行政に影響されないよう全て個人の資格で参画していただく事になっており、今後の発展が期待されるところであります。

今後理事会を中心に民主的な運営の基で、本会が会員の皆様の満足の行く会に発展できるよう、微力を尽くしてまいりたいと思います。

どうかご支援をよろしくお願いいたします。

以上簡略ですが、理事長就任のご挨拶と致します。

---

## §日本ワクチン学会理事会の発足

日本ワクチン学会理事長 神谷 齊

日本ワクチン学会は、数名の発起人により準備を開始し、2年間の準備期間を置いた後、平成11年5月にワクチンの開発、臨床応用に寄与することを目的として設立されました。

昨年理事の選挙が終わり各理事の本格的活動は本年1月から開始されました。理事会の構成は、今回に限り2年理事と4年理事を決め、以後は任期は4年として半数交代になります。選挙は分野別から選ぶことにし、基礎研究系、臨床研究系、製造・開発系、疫学系としました。選定後基礎研究系理事に問

題が生じ、細菌ワクチン系の方、獣医系の方が選出されなかったことがわかりましたので、3名の理事を必要に応じて理事長推薦で2年任期で追加できるように、広く意見を反映していただけるように致しました。

また、理事の役職は理事長、庶務、渉外(主として外国との交渉)、会計、編集、広報(主として国内向け)に分担し、理事以外より監事が2名決まりました。現在ワクチンの啓発、会員の勧誘、ニュースレターの作成、財政基盤の確立等各理事の仕事が始

まっております。

本学会のこれまでの経緯ですが、第1回は大谷明先生の会長で、発起人のひとりである倉田先生のお世話で始まりしました。続いて、第2回は高橋理明会長で同じく発起人のひとりである山西先生のお世話で開催されました。第3回は同じく発起人のひとりである神谷 齊会長で開催し、今後の運営のための会則の作製並びに理事選挙も行いました。本年第4回は同じく発起人のひとりである加藤達夫会長で開催されますが、次回からは理事会、総会で決定さ

れた学会長で行う事になっており、昨年の総会で第5回は蟻田先生に決定されております。会の充実を図るためにも、会員の皆様の積極的なご参加と理事会への御意見をいただけますよう、理事一同お待ちしております。

尚、会の財政基盤をしっかりとさせるため、賛助会員の募集も開始いたしました。賛助会員となっただけの個人、団体を募集いたしております。合わせてよろしく願いいたします。

## §理事・監事紹介・理事会の組織案内・会員の状況・会則

大阪大学医学部細菌学教室 山西弘一

### ○理事・監事紹介

#### ・基礎研究系

山西弘一：大阪大学医学部細菌学教室

倉田 毅：国立感染症研究所感染病理部

大谷 明：国立感染症研究所名誉所員

田代真人：国立感染症研究所ウイルス製剤部

#### ・臨床研究系

神谷 齊：国立療養所三重病院小児科

浅野喜造：藤田保健衛生大学小児科

加藤達夫：聖マリアンナ医科大学小児科

森島恒雄：名古屋大学医学部保健学科

#### ・製造・開発系

堀内 清：千葉県血清研究所

橋爪 壯：(財)日本ポリオ研究所

高見沢昭久：(財)阪大微生物病研究会観音寺研究所製造部

相沢主税：(社)北里研究所生物製剤研究所

#### ・疫学系

岡部信彦：国立感染症研究所感染症情報センター

磯村思无：名古屋大学医学部国際保健医療学

#### ・監事

山崎修道：国立感染症研究所

植田浩司：西南女学院大学保健福祉学部

### ○理事会の組織案内

理事長：神谷 齊

庶務：山西弘一、田代真人、浅野喜造、相沢主税

渉外：大谷 明、堀内 清

会計：橋爪 壯、加藤達夫

編集：岡部信彦、森島恒雄

広報：倉田 毅、高見沢昭久、磯村思无

監事：山崎修道、植田浩司

### ○日本ワクチン学会会員数現状

(平成12年9月末現在)

正会員 491名

学生会員 12名

賛助会員 9社

合計 512名

### ○日本ワクチン学会会則

#### 1. 総則

- 1) 本会は日本ワクチン学会 (The Japanese Society for Vaccinology) と称する。
- 2) 本会はワクチンの開発及び臨床応用に寄与することを目的とする。
- 3) 本会は上記の目的に賛同する者を以て組織する。
- 4) 本会は前条の目的達成のため、次の事業を行う。
  - (1) 年次学術集会およびその他の学術集会
  - (2) 会誌その他出版物の発行
  - (3) 国内における関係諸機関、諸学会との連絡
  - (4) 日本のワクチン研究者を代表する機関として、海外の関係学会等の諸団体との国際的な活動ならびに連絡
  - (5) ワクチン及び予防接種について社会への広報・啓発活動
- 5) 本会に事務所をおく。

#### 2. 会員

- 1) 会員は所定の会費を納めた正会員、学生会員、および賛助会員、並びに名誉会員とする。